



営農支援情報

始めてみよう！活用しよう！Z-GIS！

Z-GIS
全農 営農管理システム

(1) 開発に至った経緯

近年、農業者の高齢化や労働力不足により地域の担い手に農地が集積し、一つの経営体が管理する農地が増加し、作付け状況や作業計画・作業記録などの情報管理が煩雑になり、担い手の負担となっています。

このような営農課題の解決に向けた一助として、全農はクラウド型営農管理システム「Z-GIS」を開発し、2018年4月からサービスを開始しています。

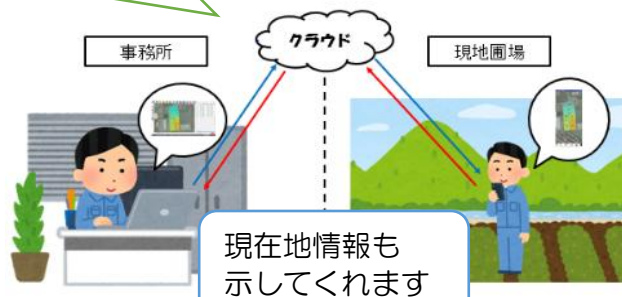
(2) Z-GISができたこと

圃場の位置情報とExcelデータの記録を紐づけて“見える化”します！

必要な情報をわかりやすく検索！



クラウド上のデータ保存で皆と情報共有！



現在地情報も
示してくれます



圃場を色分けして作業
管理が簡単に！

ラベル機能でいたい
項目を文字で表示！

(3) Z-GISの使い方～とある農事組合法人の場合

①営農計画の策定

品種や作付面積、管理者等の基本的な情報をシステムに記録し、Z-GISをベースに当年度の営農計画を立てていきます。

②作業記録

作付日、施肥日等や備考欄に圃場の特徴などを記録します。

EXCEL形式で
入力できる！



③来年度への対策

①②を経てぬかりやすい場所・雑草が多かったなど、作業の実施内容をZ-GISに記録し、来年度の対策を考えて共有します。

複数人で情報を共有し、作業記録が振り返りやすくなる！



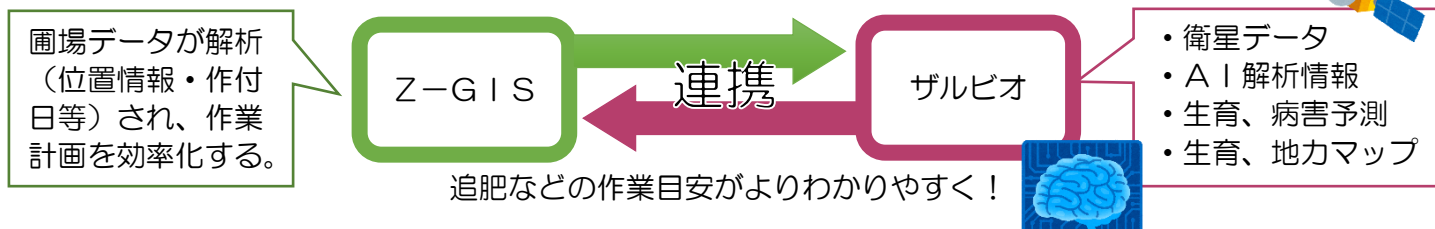
◆使用者の声 ～Z-GISの魅力について

紙の地図や記録帳では管理が大変だった圃場情報も、Z-GISならパソコンやスマートフォンで簡単に確認できます。「圃場の状況がすぐ分かる」「情報共有がしやすくなった」「記録を営農改善に役立てられる」といった効率的になった業務や情報の見える化を実感する声が寄せられており、営農指導や生産現場での活用が広がっています。



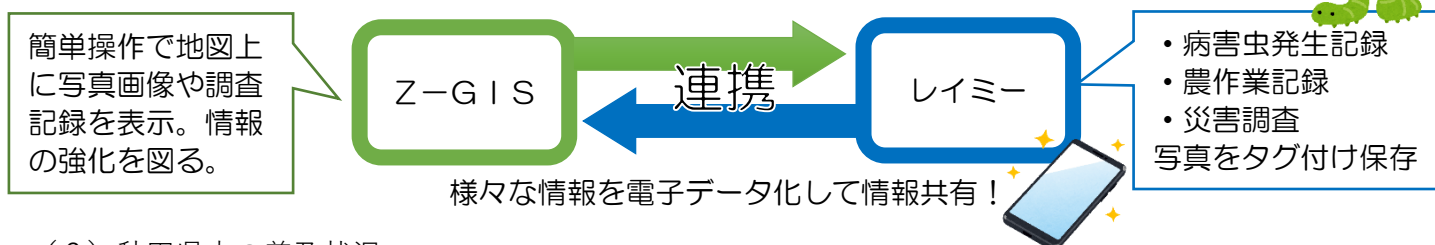
(4) ギャルビオとの連携

先号（V o l . 7 5）で紹介したB A S F社製栽培管理支援システム・ギャルビオフィールドマネージャー®（以下ギャルビオ）とZ-GISの連携で、さらにスマートな情報管理が可能となります。



(5) レイミーとの連携

2026年からの新機能で、日本農薬株式会社が提供している無料スマートフォンアプリ「レイミーのAI病害虫雑草診断」（以下レイミー）と連携することにより、レイミーで記録した集約データをZ-GIS上で閲覧できるようになります。



(6) 秋田県内の普及状況

Z-GISは令和8年8月現在、秋田県内では111名の個人・法人等の会員に導入いただいています。全国では2,318名の会員（ID数）で導入済みとなっており、着々と数を増やしています。

これからの農業を支えるデジタルツールとしてZ-GISで農作業の効率化を図ってみませんか？

【関連リンク】

Z-GIS公式ホームページ

<https://z-gis.net/99/index.html>

Z-GIS料金・利用申し込み

<https://z-gis.net/99/pricing/index.html>

Z-GIS機能マニュアル【XARVIO連携】

<https://z-gis.net/99/usage/zgismanual.html#manual-202104>

レイミーのAI病害虫雑草診断

<https://www.nichino.co.jp/products/aiapp/sougou/index.html>



JA全農あきた公式
ホームページはコチラ！

公式インスタ
秋田の農業応援団！



美人を育てる
秋田米【公式】



営農支援部 営農支援課 ☎018-880-1011

Zennoh-akita agriculture+reform
Za・あぐりふぉーむ

JA全農あきた営農情報誌 **Za・あぐりふぉーむ**
第76号 令和8年9月15日発行

編集・発行 JA全農あきた営農支援部営農支援課 〒011-0901秋田市寺内字大小路207-24 018-880-1011